

大田っ子だより R6. 11. 27 文責 校長

～見学先でもほめられた自慢の大田っ子～

11月13日(水)、全校バス遠足を実施しました。この日の目的地は、県立美術館(OPAM)と県立図書館の2か所です。県立美術館の見学は、本来は4年生対象の県の事業ですが、小規模校である本校の事情をくみ取っていただいて、全校での見学が可能となったことを機に、遠足と兼ねての実施です。

8時50分に学校を出発。10時にOPAMに到着すると、係の方が、駐車場で我々の到着を待ってくださっていました。

早速2階の学習室に案内され、作品の鑑賞の仕方についてのお話が始まります。

- ①いろいろな角度から作品を見よう
- ②作品からいろいろなことを感じよう
- ③作品について、友達やガイドさんと話そう

この3つをめあてに、縦割りで5つのグループに分かれ、それ

ぞれガイドさんと一緒に、3階の『かわいい日本美術』の展示室へと出発です。この部屋には、可憐なもの、幼いもの、小さいもの、素朴なもの等々が、「かわいい」をキーワードに表現された美術作品が展示されています。



ひとつのグループが、犬が描かれた作品の前にやってきました。ガイドさんが、「この犬、どんな顔をしていると感じる?」と、子どもたちに問いかけます。「困ったような顔」「怒っている」と、それぞれに感じたことを発言しています。

竹で編んだ籠の作品の前では、ガイドさんが、「この籠に何を乗せようかな?」と、子どもたちに自由な発想を促すように投げかけます。「宝石を入れる!」「お寿司を乗せる!」等、子どもたちも自分が乗せてみたいものを口々に伝えています。

屏風の作品の前に来たグループ。「屏風に何人の人が描かれているかな?」とガイドさんに問いかけられ、右側や中央や左側からと、屏風を見る位置を変えながら人数を数えます。すると、見る角度によって見える人の数が変わりました。同じ作品であるにも関わらず、見え方が変わる面白さを子どもたちは感じていたようです。

このように、普段目にするのでできない美術作品を目の前に、自由に自分なりに感じ取り、感じたことを交流する経験は、大変貴重なもので、子どもたちにとって楽しく有意義な時間となったようで、今後の美術鑑賞に、また創作活動にきっと活かされることでしょう。



☆係の方が、「全校の皆さんが、最後まで一生懸命に作品を見ている姿がとても印象的でした。最後まで礼儀正しく、上級生が下級生を気にかけてながら活動する様子も素晴らしいかったです」と、私に伝えてくださいました。学校以外の場でも、このような素晴らしい姿を見せてくれる自慢の大田っ子です。

OPAMの見学を終え、2つ目の見学地、県立図書館にやってきました。

到着するとお昼時でもあり、昼食は県立図書館の計らいで、研修室をお借りしました。静かな空間でゆっくりお弁当を味わいました。

昼食後、係の方から県立図書館について、以下のようなお話を聞きました。

- ・県立図書館の蔵書は124万冊で、本を重ねると約1万mの高さになる
- ・平均すると、1日1000人の利用がある
- ・地域の図書館に、県立図書館の本を貸している
- ・働いている人は、約60人
- ・建築家の磯崎新さんが設計した

その後、いよいよ館内の見学です。本校の図書室とは比べ物にならないほどの広い広い空間に、さまざまな種類の書籍や新聞等がたくさん並べられています。その間を、係の人に連れられて歩いて見て回ります。関係者以外は立ち入ることのできない書庫もを見せてくださいます。ある書庫では、スイッチひとつで移動する電動の移動棚があり、間に人が挟まれても安全装置が作動するので挟まれることはないことを伺い、子どもたちも安心。

最後は、自由に本を取って読書です。本が様々あり、なかなか読む本を決められない子もいたようですが、椅子やマットの上での読書時間を楽しみました。

退館時刻が迫り、読書時間を十分とれなかったことが少し残念でした。ご家族で大分市に行く機会がありましたら、ぜひ県立図書館へ足を運び、ゆっくり過ごしてみたいはいかがでしょうか。



～「わあ～!! たくさん!」～

11月14日(木)、1～3年生が、1学期に苗を植えたさつまいもの収穫をしました。この日、地域の方9名が、手伝いに来てくださいました。

子どもたちがスコップで土を掘っても掘っても、なかなか芋の全容が見えてきません。地域の方の手助けを受けながら、やっとの思いで掘り上げます。大きなさつまいもが一つの苗にいくつもついていて、豊かな実りを実感し、子どもたちは大喜びでした。

